

令和5年度 主要事業評価シート

① 基本事項	計画コード	22104	事業名	地価調査・地番図整備事業		評価分類	A1		
	事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等 <input type="checkbox"/> その他()					担当部署		
	施策体系	施策の大綱	06:行政経営		予算科目	会計	01:一般会計		
		基本施策	04:持続性を保つ健全な財政運営			款	02:総務費		
		施策の方向	01:多様な手法による安定した財源の確保			項	02:徴税費		
重点プロジェクト	-		目	02:賦課徴収費					
事業期間	H 18 年度 ~ R - 年度	主な根拠法令等		地方税法・亀山市税条例					

部	総務財政部
課	税務課 資産税G

② 事業概要 (P)	事業の必要性(経緯・背景等)	事業の対象(誰に、何に対して)	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	事業の内容(どのような取組を行うのか)
	固定資産税について、適正な評価・公正な課税を行うにあたっては、地価の変動、資産状況の変化等を把握し、評価に反映させる必要がある。このためには、地価調査と地番図の整備を継続的に行う必要がある。	市内全域における土地	固定資産の評価の適正化と均衡化を確保し、公平・公正な賦課を行っている。	路線価の付設及び更新、土地の異動を固定資産(土地)システムに反映させ、搭載された航空写真の参照や地図上での計測を行うことにより、効率的に適正な評価を行う。また、不動産鑑定士による鑑定価格を活用して、標準宅地の適正な時価を評定する。なお、3年ごとの評価替えにあたる令和6年度評価替えでは、雑種地にかかる評価基準の見直しを行う。

年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
③ 事業の実施状況 (P・D)	事業計画	○固定資産(土地)システムを用いた評価 ○不動産鑑定士による土地の鑑定評価 ○雑種地基準作成、現況判読		○固定資産(土地)システムを用いた評価 ○不動産鑑定士による土地の鑑定評価 ○雑種地要領作成		○固定資産(土地)システムを用いた評価 ○不動産鑑定士による土地の鑑定評価 ○評価要領協議・検討		○固定資産(土地)システムを用いた評価 ○不動産鑑定士による土地の鑑定評価 ○評価要領素案作成	
	活動実績 (計画通り実施できたか)	固定資産(土地)システムを用いて、地番図の更新、路線価の更新、画地認定図の異動修正及び条件計測、公図のイメージデータ異動更新を行った。 また、不動産鑑定士による標準宅地の鑑定及び時点修正を行った。 さらに、令和6年度の評価替えに向けて、雑種地評価基準をもとに現況判読を行った。		固定資産(土地)システムを用いて、地番図の更新、路線価の更新、画地認定図の異動修正及び条件計測、公図のイメージデータ異動更新を行った。 また、不動産鑑定士による鑑定評価の時点修正及びゴルフ場素地の鑑定評価を行った。 さらに、令和6年度の評価替えに向けた雑種地評価要領を作成した。					
計画額	事業費	事業費	28,400千円	28,042千円	17,200千円	17,204千円	15,800千円		26,700千円
		国・県支出金		0千円					
		地方債		0千円					
		その他		0千円					
		一般財源	28,400千円	28,042千円	17,200千円	17,204千円	15,800千円		26,700千円
決算額	事業費	事業費		28,040千円		17,203千円			
		国・県支出金		0千円					
		地方債		0千円					
		その他		0千円					
		一般財源		28,040千円		17,203千円			
①期間内計画額(R4-7)		88,100千円		②期間外計画額(R8-)		0千円		①+②総計画額	88,100千円

(令和5年度予算額の内訳)

前年度からの繰越額	0千円
当年度の最終予算額	17,204千円
次年度への繰越額	0千円

指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
④ 指標 (C)	雑種地評価基準の見直し	活動	%	計画値	70	100		
				実績値	70	100		
課題整理及び評価要領作成	課題の洗い出しを行い、解決に向けた検討と評価要領を作成する。	活動	%	計画値			30	70
				実績値				
				計画値				
				実績値				

⑤ 成果 (C)	事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか)
A	鑑定評価における時点修正や路線価の更新等により、資産価値の変動を的確に把握し、適正な評価を行うことができた。 また、地番図の更新実施により、窓口等で供する閲覧図面についても、新しいものを提供することができた。 令和6年度の課税では、雑種地の評価替えを行ったこともあり、市内における土地評価の均衡を更に図ることができた。
十分な成果を得た	

事業の対象	事業の目的
市内全域における土地	固定資産の評価の適正化と均衡化を確保し、公平・公正な賦課を行っている。

(再掲)

⑥ 課題 (C)	事業の達成状況等を踏まえた課題事項
	3年毎の固定資産評価替えの実施により、きめ細かな評価へと繋がった。引き続き、令和9年度評価替えに向けて、価格事情に影響を及ぼす価格形成要因等を分析し、資産価値の変動を的確に捉え、それらを評価に反映できるよう進めていく必要がある。

⑦ 事業の展開 (A)	方向性			
	継続(現状維持) 現状どおり事業を継続する			
	改善・見直し内容			
	<table border="1"> <tr> <th>令和6年度で対応する(した)もの</th> <th>令和7年度以降で対応するもの</th> </tr> <tr> <td>令和9年度評価替えに向けて、検討すべき課題を洗い出し、計画的かつ効率的に取り組めるスケジュールを立てる。</td> <td>評価替えスケジュールに沿って実施予定であるが、3年の長期間にわたる事業であるため、適宜、進捗状況を確認しながら進める。</td> </tr> </table>	令和6年度で対応する(した)もの	令和7年度以降で対応するもの	令和9年度評価替えに向けて、検討すべき課題を洗い出し、計画的かつ効率的に取り組めるスケジュールを立てる。
令和6年度で対応する(した)もの	令和7年度以降で対応するもの			
令和9年度評価替えに向けて、検討すべき課題を洗い出し、計画的かつ効率的に取り組めるスケジュールを立てる。	評価替えスケジュールに沿って実施予定であるが、3年の長期間にわたる事業であるため、適宜、進捗状況を確認しながら進める。			

【履歴】	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
成果判定	A	A		
事業展開	継続(現状維持)	継続(現状維持)		

1次評価者	総務財政部 税務課 資産税GL 高沢 林子
最終評価者	総務財政部 税務課長 渡邊 知子